

ホームページ

異動と変化、図書との縁

中央図書館事務部
収書・整理課 榎田 真也

この春より中央図書館 収書・整理課へ配属となった。図書を密接に取り扱う業務はおろか、本部での勤務も初めてであるため、日々新しいことを学んでいるさ中であるが、後述のとおり図書との縁は深いので、今後図書館の力となれるよう、尽力したい次第である。

大学職員となってから六年半の月日を今になって振り返ると、嵐のように過ぎ去った、これまでの日々が思い出される。インターネットで大学職員のことを調べると、転勤が少ない職種であるように語られているが、これは自分には全く当てはまらなかった。一年から二年半周期での、転居を伴う異動を既に三度経験しているが、どれも職務内容はもちろん、住環境も各地によって全く異なったものであるため、まるで転職をしたかのように、公私双方の環境の刷新を経験した。(異動の内示が通達されるのが異動日の十日～二週間前なので、引越、手続き、その他諸々慌てて準備をするのも恒例ではあるが。) 様々な仕事や風土を経験できる価値は計り知れないが、じっくり腰を据えて、深く広く仕事を覚えることもまた、良い経験となるに違いないので、今度こそは長く縁があることを祈るばかりである。

思えば、私と図書との縁は浅からぬものであったのかも知れない。幼少の頃は母が持っていた漫画本をよく読んでおり、そのためか漢字の読み取りだけは得意であった。小学生の頃は、自宅に自分の部屋がなく、当時は近所にあった奈良県立図書館で夏休みの宿題をこなしていた。大学生時代に、片道二時間を通学に費やししながら何とかアルバイトをして

いたのも実家の最寄り駅前の書店であったし、東広島市の工学部では図書館に配属となり、現在のように目録整理や図書の受入等はほとんど経験しなかったものの、本を身近に感じる機会は多かった。

しかし本と縁が深いことに反し、ここ数年については、恥ずかしながら十分に本を読める機会には恵まれていなかった。学生時代、長い通学時間に本を好きなだけ読めるという今思えば贅沢な環境に気が付かず、書店でアルバイトをする一方で、母校の図書館を二、三回程しか訪れなかったことは、今でも悔やまれる。無論、視聴覚資料の貸出・閲覧や電子ジャーナル等、当時大学図書館ならどこでも用意されていたであろう便利なサービスも知らなかったのである。新入生への図書館施設の紹介・案内の重要性については、この経験もあって高い必要性を持つと考えている。

活字に触れることそのものは決して嫌いではないので、今後本学図書館に所蔵されている書籍は、興味を持ったものを積極的に借りたいと考えている。

昨今は Amazon の Kindle を筆頭に、電子書籍の普及の兆しが見えつつあり、本の形態が変革する過渡期であるとされている。紙で出来た書籍は今後も長く愛されることは間違いないが、パソコンはもちろんスマートフォンやタブレット端末に入れて自由に持ち運びが出来、本棚のような使わない時に保管するための場所を必要とせず、欲しくなれば夜中でもすぐにダウンロード出来る電子書籍もまた、一昔前に流行った言葉ではあるが、ユビキタ的な魅力に満ち溢れている。本学をはじめとする大学図書館の様式も、今後電子化の波に乗り、大きく変動することは確実であろう。

住む場所が変わるということは、自身にとっても大きな変化をもたらす。自分でも全く予想外の変化ではあるが、これまで全く興味の

なかった園芸に、ここしばらく夢中になっている。一番のお気に入りは建物型プランターに小さな蘇鉄とカエデを植え込んだもので、自画自賛ではあるが、モルタル製で味のあるプランターと、愛嬌のある植物の組み合わせがきれいにまとまっていて、見る者の心を癒してくれる。ホームセンターに立ち寄るごとに植物をチェックする習慣が付いてしまったが、飾れるのは場所に余裕のないベランダのみであり、立派な樹木やスペースをふんだんに使うようなガーデニングは到底実現出来そうにないため、しばらくは少数精鋭で我慢しなければいけない。

中央図書館に異動してから早半年が経ちつつある。異動のあるごとに事実上まったくの新人となるので、今回もまるで知らなかった業務を新人職員の気概で学んでいる。図書館業務に十分貢献できているとはまだ言い難い状態であるので、今後も研鑽を続けていきたい。



プランター。
鉢としてはかなり小さいので、よほど小ぶりなものしか植えられない。



大雪の朝の愛車。
県外ナンバーの車が多いこのマンションには、雪解けの季節になるまで車の利用を諦める住民もいた。



は〜い。注目。